令和５年（2023年）10月20日
教 育 委 員 会 資 料
教育委員会事務局指導室

令和５年度中野区学力にかかわる調査の結果について

１　調査の趣旨

〇各学校において、自校の児童・生徒一人ひとりの学習状況や学年の傾向を踏まえて、教育課程や指導の改善・充実を図る。
〇調査の結果を基に児童・生徒が自身の学習上の課題を認識し、その後の学習に役立てる。
〇各教科の目標や内容に照らした学習の実施状況を把握し、区内小・中学校における教育課程の実施状況についての課題を明らかにして教育委員会の施策及び事業に生かす。

２　学習指導要領改訂に伴う観点等変更の経緯

〇令和２年度の学習指導要領改訂によって、小学校の評価の観点が、国語、算数ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に変更されたため、令和３年度、本調査の小学校２年生から中学校１年生の評価の観点も３観点に変更した。令和３年度に中学校でも学習指導要領が全面実施となり、令和４年度に本調査の中学校２、３年生の評価の観点も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に変更した。
〇令和３年度より社会と理科２教科の調査を実施しないこととした。
※これまでの調査実績を分析した結果、社会と理科の調査問題については知識・技能のみを問う傾向が強く、学習指導要領を踏まえた学習内容を測ることが難しいと判断した。

３　調査の実施概要

（１）対象学年及び教科　　※　調査範囲は前年度の学習範囲

学年 対象人数（人）	小２ 1831	小３ 1784	小４ 1679	小５ 1714	小６ 1586	中１ 1135	中２ 1082	中３ 1063
国語	○	○	○	○	○	○	○	○
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○
英語							○	○

（２）実施方法　ペーパーテスト形式による調査
（３）実施時期　小学校　令和５年４月１０日（月）～１４日（金）の中で１日
　　中学校　令和５年４月１４日（金）

４　調査の方法・内容

（１）本調査では、学習指導要領の目標、内容の学習状況を把握するため、教科の観点ごとに問題を作成する。
（２）出題した学習内容や問題の形式、難易度等を考慮し、あらかじめ「おおむね満足である状況」を示す数値を「目標値」として設置した。この目標値に到達した児童・生徒の割合（達成率）を基に、学習状況を把握する。
※達成率が７０％であれば、区内の７０％の児童・生徒が、「おおむね満足できる状況」にあることを示しており、教育委員会は全ての教科の全ての観点の達成率を７０％以上にすることを目指している。
（３）学習指導要領の全面実施にともない、評価の観点が変更されたことから、項目数はこれまでの８６項目から令和３年度は４４項目、令和４年度からは３６項目に変更となった。

【表１】各学年の評価の観点と項目数

	観　点	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３	教科ごと項目数
国語	「知識・技能」	○	○	○	○	○	○	○	○	１６
	「思考・判断・表現」	○	○	○	○	○	○	○	○	
算数・数学	「知識・技能」	○	○	○	○	○	○	○	○	１６
	「思考・判断・表現」	○	○	○	○	○	○	○	○	
英語	「知識・技能」							○	○	４
	「思考・判断・表現」							○	○	
評価項目数		４	４	４	４	４	４	６	６	３６

※網掛けは目標値に到達した児童・生徒が７０％以上の項目を示している。

５　調査結果の分析

（１）目標値を達成した項目数の割合について

【表２】目標値に達した児童・生徒の割合が７０％以上の項目数の経年比較

年　度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
項目数	６２/８６	３６/４４	２０/３６	１５/３６
目標値を達成した項目数の割合（%）	７２．１	８１．８	５５．６%	４１．７%

（２）観点ごとの達成率について

【表３】令和５年度　観点ごとの達成率

＜国語＞令和５年度　観点ごとの達成率　　▲R5 が R4 と比べて下がっている観点

		話す・聞く力		書く力		読む力		言語についての知識・理解・技能		知識・技能		思考・判断・表現	
年度		R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R4	R5	R4	R5
小学校	２年	75.5		57.0		71.1		86.2		80.6	▲78.8	69.1	▲64.5
	３年	84.4		78.2		83.3		84.8		72.7	74.1	70.4	▲67.8
	４年	70.4		73.6		75.2		77.0		69.3	▲68.8	63.2	65.5
	５年	77.8		80.3		85.5		69.8		69.1	▲64.8	67.7	▲64.4
	６年	76.3		85.1		72.2		78.5		76.7	▲76.1	69.2	71.0
中学校	１年	77.5		84.2		76.4		69.8		73.5	▲70.5	67.7	68.4
	２年	83.1	81.2	81.6	82.7	79.8	81.0	69.4	68.2	74.1	▲71.3	74.1	▲70.8
	３年	89.1	90.9	82.4	79.6	78.9	77.5	79.0	77.3	69.7	▲69.2	68.7	69.0

＜算数・数学＞令和５年度　観点ごとの達成率

		数学的な考え方		数量や図形についての技能		数量や図形についての知識・理解		知識・技能		思考・判断・表現	
年度		R2	R3	R2	R3	R2	R3	R4	R5	R4	R5
小学校	２年	82.6		91.3		86.8		88.4	▲87.8	78.9	▲77.0
	３年	79.1		85.6		79.6		77.1	78.7	70.8	71.4
	４年	74.7		80.6		84.2		79.6	▲79.1	66.3	▲65.7
	５年	78.6		80.0		76.5		73.8	▲69.3	59.2	▲56.8
	６年	74.8		73.8		75.4		74.3	▲71.0	70.4	▲67.5
中学校	１年	71.2		76.1		71.4		70.0	▲66.5	69.9	▲65.6
	２年	64.9	71.4	80.1	78.7	65.2	73.6	68.8	71.3	68.7	▲68.3
	３年	69.0	68.0	79.3	77.0	70.5	70.6	73.2	▲68.5	71.6	▲68.1

＜英語＞令和５年度　観点ごとの達成率

		外国語表現の能力		外国語理解の能力		言語や文化についての知識・理解		知識・技能		思考・判断・表現	
年度		R2	R3	R2	R3	R2	R3	R4	R5	R4	R5
中学校	２年生	77.5	74.9	80.0	77.1	75.7	75.0	75.3	▲70.9	58.3	59.4
	３年生	79.3	77.6	88.2	86.5	80.0	76.2	69.3	▲68.9	71.2	▲61.7

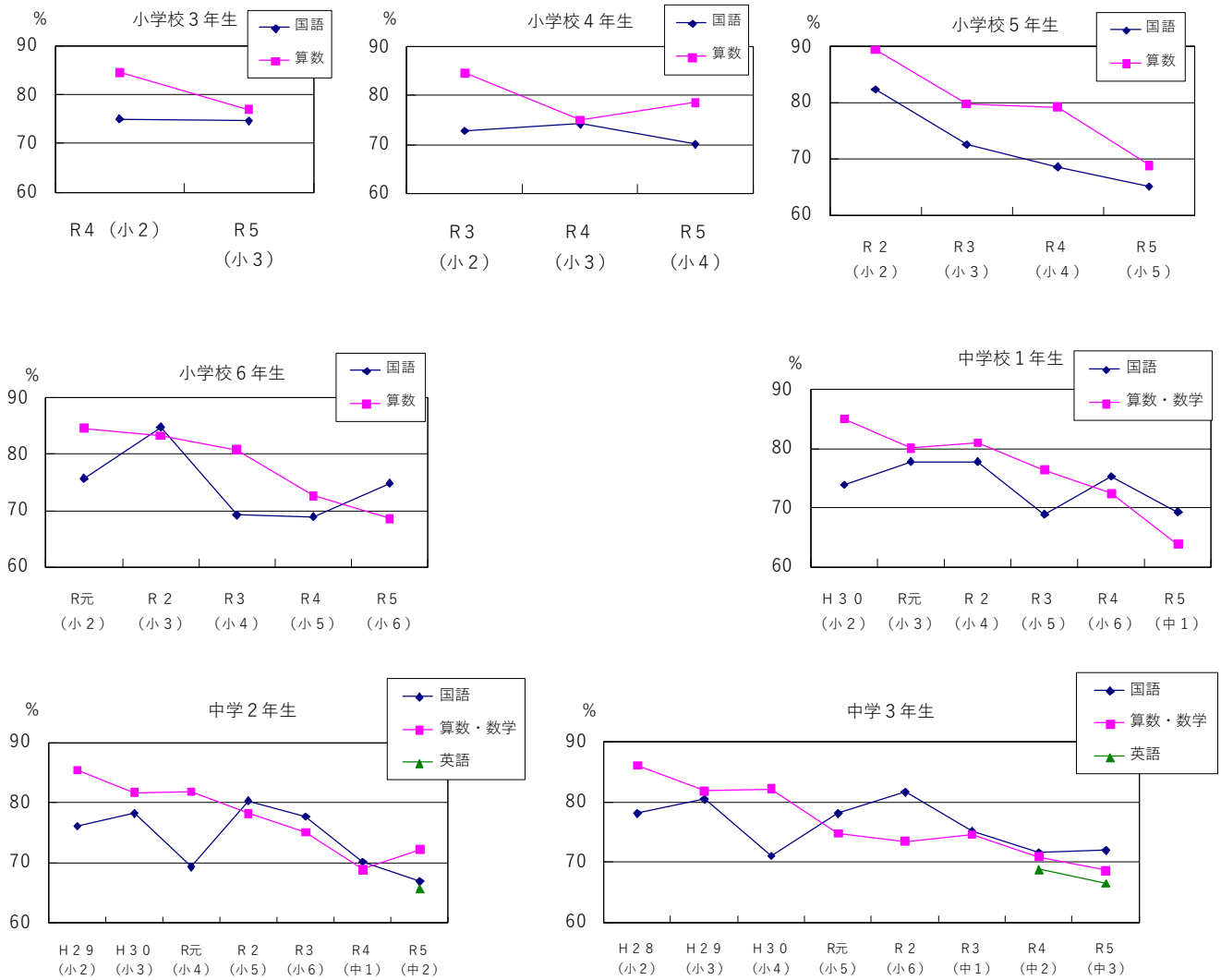
※網掛けは目標値に到達した児童・生徒が７０％以上を示している。

①教科ごとに見ると、達成率が７割を超えた項目数は、国語は１６項目中７項目（知識・技能５／８）（思考・判断・表現２／８）、算数・数学は１６項目中７項目（知識・技能５／８）（思考・判断・表現２／８）、英語は４項目中１項目（知識・技能１／２）（思考・判断・表現０／２）となった。このことから、３教科とも「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」の定着に課題があることが分かる。

②算数・数学の「思考・判断・表現」を見ると、昨年度と同様に５年生の達成率が５６．８％と他と比べて低くなっており、引き続き課題があることが分かる。同様に、中学校第２学年の英語も「思考・判断・表現」が５９．４％と昨年度より１．１ポイント上がったものの、まだ６０％を下回っている。

（３）同一母集団の達成率の経年変化について

【図１】同一母集団の経年変化（達成率）



①国語については、小学校４年生、５年生（小学校３年生、４年生の学習事項）の達成率が低い傾向がある。

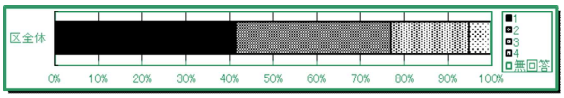
②算数・数学については、学年が進むとともに達成率が下がる傾向がある。前年度までの学習内容の定着が図れず、そのまま進級している児童・生徒が少なからずいる可能性がある。

（４）「学習についてのアンケート」の結果について

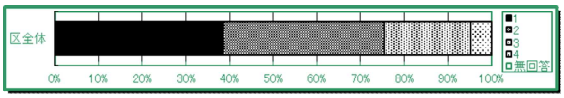
〇国語・算数（数学）について（小学校５年～中学校３年抜粋）

①新しく覚えた言葉を、普段からできるだけ使うようにしている。

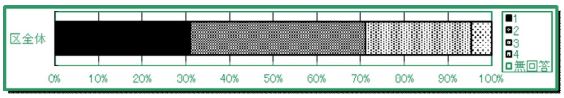
小学校５年生



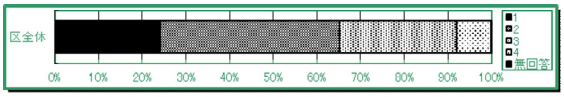
小学校６年生



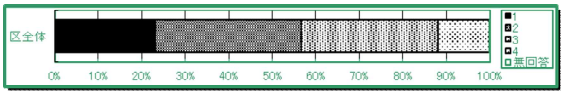
中学校１年生



中学校２年生

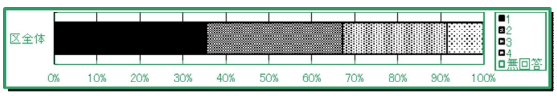


中学校３年生

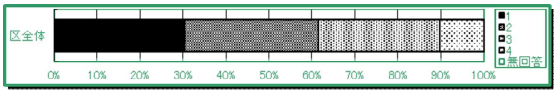


②読書に親しんでいる。

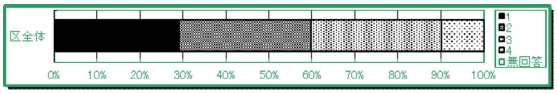
小学校５年生



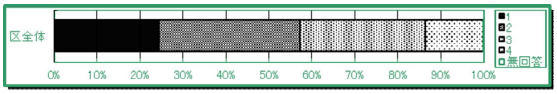
小学校６年生



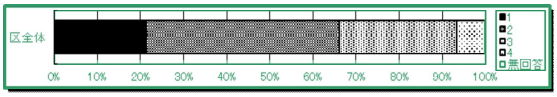
中学校１年生



中学校２年生

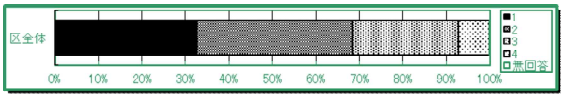


中学校３年生

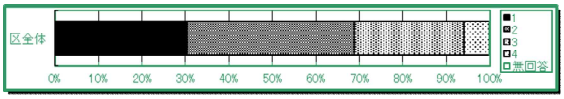


③算数（数学）において、繰り返し練習するようにしている。

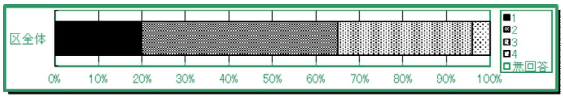
小学校５年生



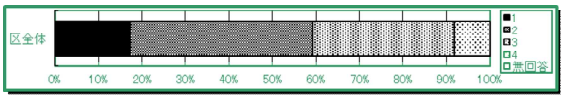
小学校６年生



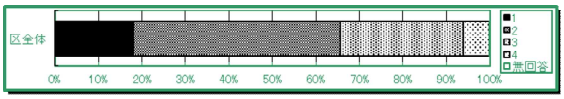
中学校１年生



中学校２年生

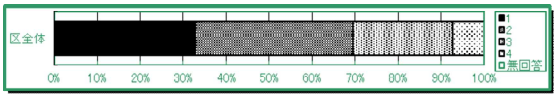


中学校３年生

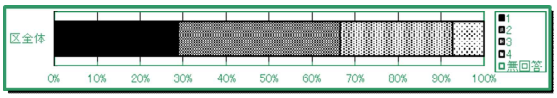


④日常生活の中と算数（数学）を結び付けている。

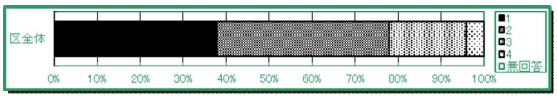
小学校５年生



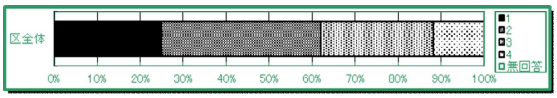
小学校６年生



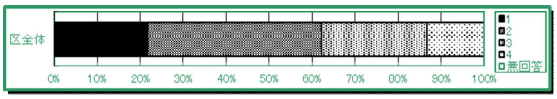
中学校１年生



中学校２年生



中学校３年生



■ よくあてほまる　▒ ややあてはまる　▒ あまりあてはまらない　▒ まったくあてはまらない　□ 無回答

・①②から、語彙を増やしたり、言葉の意味を定着させたりしようとする態度は不十分であることが分かる。
・③について全ての学年で算数（数学）において「繰り返し練習をするようにしている」に肯定的回答をした児童・生徒が７割を下回っている。
・④から、５学年中４学年の肯定的回答の割合が７割を下回っていることから、算数（数学）の学習を日常生活の中で生かそうとするような態度は不十分であることが分かる。

６　課題

（１）学習指導要領で示されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成に向けた授業改善が不十分であると考えられる。

（２）国語においては、小学校４・５年生で（小学校３・４年生の学習事項）達成率が低くなる傾向がある。算数・数学においては、学年が上がるにつれ達成率が低くなる傾向がある。中学年の学習内容の定着や、前学年までの内容に立ち返るなどの補充的な学習が不十分であると考えられる。

（３）児童・生徒が粘り強く取り組むなどの学び方や学んだことを日常生活の中で生かすような取組が不十分であると考えられる。

７　今後の対応

令和５年６月に策定された、「中野区教育ビジョン（第４次）」では、「子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている」という目標を掲げ、「確かな学力の定着」に向けて、学力調査の目標値を達成した項目数の割合について令和８年度までに７０％の目標値を設定している。しかし、今年度の結果は昨年度に比べて達成率が下がっている。全ての児童・生徒が確かな学力を身に付けるため、より一層の授業改善が必要となる。一人ひとりの学習状況に応じた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、学力向上を図るために以下の項目について着実に実行していく。

（１）学習内容の定着を図るための「補充的な学習」を進めるため、任期付短時間勤務教員を効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。また、児童・生徒が個の習熟度に応じた課題に取り組めるよう、中野区全体で統一したＡＩドリルを導入し、その効果的な活用の仕方を検証していく。

（２）児童・生徒に３つの資質・能力をバランスよく育成するようにしていく。特に、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である「学びに向かう力」を涵養させていく。そのために、「習得・活用・探究」という学習プロセスの中で、学んだことを生かしたり、日常生活に適応させたりしていく「活用力」に重点を置いた学習になるよう、授業改善を推進していく。

（３）「学校教育向上事業」における学力向上に向けた優れた取組について、研究発表会だけでなく、教員研修等でも積極的に取り上げ、区内に周知をしていく。

（４）今年度の調査結果を受け、「授業改善プラン」のフォームを刷新した。各学校においては夏季休業期間等に自校の結果についての分析を行い、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、具体的な方策を明記した各校の「授業改善プラン」を作成した。全教員が共通理解した上で、プランに基づいた授業改善を進めているところである。

（５）区全体の調査結果を、中野区教育委員会ホームページ上で公開することで保護者や区民にも広く周知し、学校・地域・家庭が連携して学力向上に取り組めるような支援を行っていく。

（６）これから求められる「新しい学力観」をどのように測るかについては課題がある。「中野区学力にかかわる調査」の調査問題等も含め、今後も検討を行っていく。